

会 議 録 （概要）

会議名称	平成27年度 伊那市特別職報酬等審議会第2回審議会
日時	平成27年12月4日（金） 午後2時から午後3時10分まで
場所	伊那市役所 庁議室
出席者	<p>【委員】 川上健夫、高嶋厚、北原一博、北原文明、原博文、飯島信子、春日幸子、山崎恭子</p> <p>【理事者】 白鳥市長（答申時）</p> <p>【事務局】 原総務部長、馬場総務課長、田原係長、川崎主任</p>
欠席者	【委員】 滝澤雄二、黒河内貴
議題	<p>(1) 市長、副市長、教育長の給料について</p> <p>(2) 市議会議員の報酬等について</p> <p>(3) 答申案について</p> <p>答申</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内19市の直近の市議会議員選挙における候補者の年齢構成 ・ 議員報酬改定シミュレーション
議 事 内 容 （要 旨）	
<p>1 開 会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 審議事項</p> <p>(1) 市長・副市長・教育長の報酬等について</p> <p>(会長) 前回欠席された委員もいるため、前回の審議について確認する。市長、副市長、教育長の給料については据置きという方向がでていますが、それでよろしいか。</p> <p>(一同異議なし)</p> <p>(2) 市議会議員の報酬等について</p> <p>(事務局) 資料 県内19市の直近の市議会議員選挙における候補者の年齢構成について説明</p> <p>(会長) 伊那市の議員立候補者は、59歳以下が20%、60歳以上が80%であることが特徴だ。若者にとって魅力がないか、その一因が報酬であるとも類推できる。</p> <p>(委員) 予想どおりだ。60歳以上は年金世代であり、所得から解放された人が主だ。各年代層の意見を反映できることが理想的だが、現状はこのようだ。</p> <p>(会長) 議員の報酬について、若者に対して魅力が無いので若干増額できたらという意見が前回あった。増額した場合の具体的なイメージを持つため、事務局に資料作成を依頼した。</p> <p>(事務局) 佐久市と安曇野市の報酬改定予定の有無について確認したところ、両市ともに平成27年度中に審議会開催予定は無く、来年度以降も未定という回答だったことを報告する。</p> <p>また、議長、副議長、議員の報酬の差は、責任の重さと、全国議長会等の対外的な仕事、</p>	

式典・会議等への出席が他議員より多いことが考慮されて設けられている。他市においても同様に差が設けられているということを理解いただきたい。

資料 議員報酬改定シミュレーションについて説明

(会長) 他市と比べた場合の順位は、議長8位、副議長9位、議員6位で若干低い感が否めない。現状維持よりも若手議員の活躍を期待し、若干の増額をという意見が前回の筋だ。いくら増額するのが適当なのか、委員の総意として全員から意見を伺い、筋でまとめていきたい。

(委員) 判断が難しいが、5,000円、10,000円で議員に立候補する意欲がわくか疑問だ。一方、大きな増額は、市の財政や他市とのバランスを考えるとできないと思う。人口が多い割には議員報酬が少ない安曇野市と佐久市が当面増額しないのであれば、その2市と差が開くのはバランスが良くない。増額しても10,000円だと考える。審議結果が5,000円増額というのも少額であり、据え置きか10,000円増額か、と感覚的に思う。

(委員) 議員が、議員活動にどれくらい拘束されているのか聞きたい。議員以外に他の職業にしているようだが。

(事務局) 年4回の定例会は、1回あたりの会期が約20日であり、その他特別委員会活動、市民懇談会がかなり活発になっている。地域の課題、相談に応じる活動は日常的にある。

(委員) 政務調査費の精算方法は概算額を前払いか、実費精算か。

(事務局) 最終的に用途の報告を受け精算する。最高で120,000円となる。

(委員) 報酬を上げて若手人が活躍できるか難しい。全体が改定された平成17年と今の経済状況を比較すると報酬を下げることはあっても上げることはない。効果も薄く取り巻く状況もそうでもないとなれば、今の状況がラインだと思う。

(会長) 据え置きということか。

(委員) そうである。

(委員) 市の経済事情もあり、議員報酬を上げて効果が期待できないので、据え置きが妥当ではないか。

(会長) 今、若手のために報酬を上げるという意見と、据え置きという意見が出ている。

(委員) 若手の議員が少ないのは、子育てをしながら議員活動するのは今の報酬では難しいからだと思う。若手の議員の為にはもう少し増額してもいいと思っていたが、意見を聞き、据え置きでいいと思う。

(委員) 審議会の「若手議員を増やしたい」という方針においては、5,000円の増額でも10,000円の増額でも同じだ。5,000円増額か据え置きのどちらかでよいと思う。大幅な増額はしなくて良いのではないか。

(委員) 額はよく分からないが、議員の積極的な取り組みは認めたい。いい方向になればいい。

(会長) 現状維持か、議員活動への応援の意味合いも込めて5,000円の増額かという意見だがいかがか。

(委員) 今の議員活動は、以前より活発だと思う。若干増額してもいいのではないか。

(委員) 据え置きか10,000円の増額かという考えだったが、委員の意見が少しプラスの意味合いが含まれた意見であり、また改定時期でもあるので、応援の意味も含め5,000円の増額と

して、頑張っていただけたらと思う。

(委員) 5,000 円の増額は金額の問題ではなく、私達の思いや議員に何を求めているかという思いは分かってもらえると思う。下げた場合も一同じだ。評価するという意見もあり、応援のメッセージは伝わると思う。

(会長) 月額 5,000 円の増額は年額百数十万円違うが、その程度であれば市の財政を逼迫させるようなものではないという話だった。

(委員) 佐久市や安曇野市は改定する予定はない中で伊那市は議員報酬を増額することで応援のメッセージと受け取ってもらえるかもしれないが、昨今の経済状況を鑑みの中で、応援の気持ちだけであれば、増額することは疑問に思う。据え置きで良い。

(委員) 雀の涙の 5,000 円が、本当に議員に応援のメッセージとして受け取られるか疑問がある。いっそ大幅な増額か据え置きかと思う。

(会長) 大幅というとどれくらいか。

(委員) 頑張ってもらうなら 25,000 円くらいだが、若者が子育てをしながら議員活動も行うのであればもっと増額したい。だが、税収を考えると不可能であり据え置きでよい。

(会長) 意見を集約したい。据え置きか 5,000 円増額かということだが、いかがでしょうか。

(委員) 応援のメッセージも含めて 5,000 円の増額が良い。ただ、市長等が増額しない中で議員だけ増額しても良いのかとは思ふ。

(委員) 同意見だ。5,000 円を増額して若者が議員に立候補するか疑問だ。

(会長) どう意見を集約するか。

(事務局) 全会一致が望ましいが、どちらかの意見を付帯意見とすることもできる。

(委員) 市は現在、公債比率の改善が見られるということだが、かなり儉約しているのか。

(事務局) まだ 19 市では低い水準だが、様々政策展開により、この数年で一気に改善している。

(委員) その状況の中で増額するのはどうなのか。

(事務局) 据え置きでも改定でも、判断基準が何かは問われると思われる。前回改定時の基準でみると、市長、副市長は若干高め、議員は低めとなる位置づけを、審議会の中でどう調整するのかということになる。

(会長) 他市との比較では、現状では議長が 8 番目、副議長が 9 番目だ。これは若干低い位置付けであり、シミュレーションによると 5,000 円増額すると議長が 7 番目、副議長も 7 番目という、今の市の規模の水準になる。10,000 円増額すると、議長が 6 番目になる。5,000 円増額をすると横並びに近くなる。これが若干増額の考えの根拠となる。

ここを最終的に詰めたいが、応援のメッセージというよりも他市とのバランスを考えると、5,000 円増額すると概ね中庸の位置付けになる。10 年間据え置いてきた経過もある。そのあたりで、判断基準をどちらに置くか決めたほうが結論が出やすい。

(委員) 確認だが、審議会の開催時期は任意の時期か。開催の基準や慣例はないか。

(事務局) 条例の規定により、市長が審議会に諮問し、答申を受ける。今の水準が適正であるか判断を求めることが通例だ。開催時期の慣例はなく、他自治体でもまちまちだ。情勢変化に応じて市町村長の判断で開催するのが通例かと思う。

(会長) 審議会開催時期については市長にも口頭で伝えたい。10 年期間が空くのは長すぎる。

市長任期中には開催することがよいと思う。

他市を意識して考えるのか、それとも今までどおりにするのかという二択になるが、どちらがよいか。判断基準を明確にしておくことが必要だ。

(委員) 他市を基準に考え、財政の好転もあるので応援の意味も込めて5,000円の増額とするのがよい。

(委員) 同意見だ。

(委員) 平成17年の答申の考え方を踏襲しないという考えは無いと考える。

(会長) 審議会としての統一の意見として、他市とのバランスを鑑みて5,000円増額とするということで、今回は答申したいと思うがよろしいか。

(一同異議なし)

事務局答申書作成

(会長) ただいま朗読のあったとおりの内容で答申してよろしいか。

(一同異議なし)

(会長) 先ほど委員から意見があったが、市長の任期中に1回程度、審議会を開催してはどうかということ、市長に口頭で意見として伝えるということによろしいか。

(一同異議なし)

4 答 申

会長が答申書を読み上げ、答申書を市長へ手渡す。

5 市長あいさつ

(市長) 慎重審議の上に答申をいただいたことに心から感謝申し上げます。審議においては県内各市の状況及び社会情勢を考慮し、大変貴重なご意見をいただいた。特に今回は市会議員の報酬について、貴重なご意見を賜った。答申内容を踏まえて関係条例の整備等を議会に提案をして参りたい。

6 閉 会

(会長) この審議会の開催が、過去10年間なかったことから、ぜひ市長の任期中に一回程度は審議会を開催していただきたいという意見があつたことを口頭でお伝えします。